

12月1日は『世界エイズデー』

～正しい知識と関心を持ちましょう！～

12月1日は、「世界エイズデー」です。世界エイズデー（World AIDS Day）は、世界レベルでのエイズの蔓延防止と、患者さんや感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。



エイズ（AIDS）とは

エイズは、和名「後天性免疫不全症候群」と言い、生後に罹る（後天性）、免疫の働きが低下する（免疫不全）等のいろいろな症状の集まり（症候群）という意味になります。



正しい知識を身につけよう！

- エイズは、HIVに感染することによって起こります。HIV（ヒト免疫不全ウイルス）は、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4細胞）という白血球等に感染します。そして、からだを病気から守っている免疫力を破壊していきます。
- HIVに感染しても、すぐエイズを発症するわけではありません。HIVに感染すると、通常6~8週間経過して、血液中にHIV抗体が検出されます。感染から数週間以内にインフルエンザに似た症状が出ることがあります、この症状からはHIV感染をしているかどうかを確認することはできません。HIV検査を受けて、はじめて感染の有無を確認できるのです。検査は全国の保健所等で受けることができます。保健所は、料金は無料、匿名（氏名を聞かれません）で受けられます。



HIVの主な感染経路は3つ



感染経路1：性行為による感染

- 性行為による感染はもとも多い感染経路です。HIVは感染者の血液・精液・膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口等の粘膜や傷口を通じて感染します。
- コンドームの正しい使用は、エイズや他の性感染症予防にとって有効な手段です。



感染経路2：血液を介しての感染

- HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤等の依存性薬物の“回しうち”による注射器具の共用等によって感染します。
- 日本では、献血された血液は厳重な検査により最高水準の安全が確保されています。しかし、現在の技術ではきわめて稀とはいえ、感染の可能性を完全には排除できません。血液凝固因子製剤については加熱処理が行われているので、現在の血液製剤で感染する心配はありません。



感染経路3：母親から赤ちゃんへの母子感染

- 母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。母乳による感染例もあります。
- お母さんがHIVの治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1%以下に抑えることができます。



HIVは、体の外、つまり空気中や水の中などに出てしまうと、感染力をなくします。また、HIVを多く含むのは血液、精液（さきばしり液含む）、膣分泌液、母乳といった体液であり、汗、涙、唾液、尿、便などの体液の接触による感染の可能性はありません。つまり、通常の社会生活中で感染することはできません。